

キックオフイベント オンラインセッション開催報告

イベント名

研究公正の推進のために必要な取り組みとは？ 研究者、行政、社会の取り組み

開催日時

6月23日 15:00～16:35

登壇者など

座長: 田中智之(京都薬科大学)、中村征樹(大阪大学)

パネリスト: 菱山豊(徳島大学)、松澤孝明(文部科学省)、浅井文和(ジャーナリスト)

参加人数

120名

報告内容

JAASには、競争の激化や不透明なキャリアパスといった研究環境をめぐる問題を改善することを目標とした「研究環境改善WG」があります。ここでは、行政や政治家、あるいはメディアといった多様なステークホルダーとの対話を重ねて、研究環境改善のための提言を行うことが予定されています。こうした活動が社会から認められるためには、「間違ふことはあっても嘘をつかない」という研究者の誠実な態度が必要であり、また研究不正のような社会との信頼関係を損なう行為に対しては自浄作用を積極的に発揮していく必要があります。このオンラインセッションでは、科学振興機構において研究公正の推進につながるプロジェクトを進めている田中、中村が座長をつとめ、行政、メディアのパネリストと、どのように研究公正を推進していくかを議論しました。研究不正の調査委員会を組織する際の苦労や、研究公正の専門家が限られているといった課題が話題に上りました。パネリストからは、研究の現場に近いところで助言することができるアドバイザーの意義についての紹介があり、不正調査を担当する研究公正担当官のようなイメージとは異なる、研究不正が起こる前に相談できる存在について議論がありました。米国の研究公正局に相当する組織を求める声は強いですが、そうした組織がうまく機能するために必要な条件については十分な議論がないという指摘もありました。研究公正は研究活動の根幹にある価値観ですが、実際にはなかなかその重要性は認識されていません。研究公正の推進に対する関係者の意識を高めること、またわが国の研究文化を考慮した制度設計を議論する必要があること、そしてこうした対話の場を継続的に設けることの重要性について合意することができました。